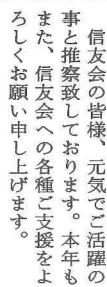


東京都新宿区高田馬場
3丁目45-4
電話 03-5330-1192 (代)

会長 牛山正吾



さて私も昨年は変化に富んだ一年でありました。信友会会長に就任させていただくのと、機を一にするように、十一年間お世話になっ

た電機メーカーを退職し、特許に勤務することと相成りました。そこで今回は特許の現状を少し紹介したいと思います。勤務領域が変わりますと、使用する用語も当然変わって戸惑うものです。NTTから防衛庁内局通信課に出向し

陸幕通信電子課長 林 忠行



信友会の皆様には、平素の御支援に感謝申し上げますとともに、今日のご発展を心よりお喜び申し上げます。

さて、昨今の国内外情勢は混沌迷
の一端をたどり、陸上自衛隊を巡
る環境も著しい変化を遂げようと
しております。

PKOを始めとする国際的役割の中核としての位置づけはほぼ定着し、8年2月のUNDOF派遣をもっていよいよ長期的なPKO

派遣国となるわけでありませう。

また、自衛官の身分で国連職員となるための法令整備も整ってまいりました。

国内の役割としましては、未曾有の大災害となった阪神淡路大震災や一連のオウム真理教関連事件、これらは大変不幸な出来事ではありましたが、陸自の組織力、特殊能力等に対する国民の皆様、信頼を得る場ともなりました。これらで諸先輩方が営々として整備して来られた諸施策、黙々として培ってきた実力こそが、国難にあたり国民の負託に応えられるものであることが明らかになったわけでありませう。しかかたに、改善すべき点が多々あるのも事実であり、多角的な検討に着手しているところ

でありました。
 また、通信情報技術基盤等通信
 電子環境を概観しますと、インター
 ネット、CALS、ATM LAN
 PHS、ウインドウズ95等、それ
 ぞれデータ通信の拡充、情報の電
 子化、通信技術の高度化、移動通
 信の多様化、ソフトウェアの機能
 向上といった次世代の波が毎日の
 新聞を賑わしておりますが、こ
 れらの技術基盤を有効に活用し、所
 謂「指揮官」の欲する時期と場所に

勲四等旭日小綬章 中島 格 (元技本技術開発官)
 // 依田 文彌 (元通信団長)

秋

勲四等旭日小綬章 大西 昇 (元会監副隊長)
 // 鈴木 七郎 (元沖繩地連部長)
 // 武藤 和敏 (元通校副校長)

た部員が、「コウシャ」と聞くと以前の電々「公社」を連想し、防衛庁では「高射」を意味する事が多いと、気が付くのに相当期間を要したといえます。

小生も同じように、特許庁内で頻繁に使用される用語「ガンパン」「ネンキン」を耳にすると、つい普通名詞の「岩盤」「年金」とイメージしてしまっていました。今の職場での「願番」は特許出願番号を意味します。「年金」については後程説明することになります。

前置きが十分長くなりましたが、本題に入りまして。世界中から出される特許出願件数は約百万件、そのうち日本特許庁への出願は、平成六年度実績で約三十五万件で

ように実施します。また懇親会は恒例により役と共催で行います。

記

一、日時 平成8年2月17日(土)十一時半より

(一) 総会 一一三〇～一二〇〇

(二) 懇親会 一二〇〇～一四〇〇

二、場所 第一ホテル東京

電話 〇三―三五〇―一四四二一

住所 東京都港区新橋一―二六
(J R新橋駅日比谷口徒歩二分)

三、会費 九〇〇〇円(会場でいただきます)

【お願い】

九割は日本人からのものです。世界の特許出願の三分の一は日本でも発生している事になります。ちなみに日本の主要エレクトロニクスメーカーは、各社年間ほぼ一百万件以上の出願をしております。この湧いてくるような特許出願を、処理するため導入されたのが、平成二年からの世界初の特許出願電子化システムであります。現在の出願の形態は以下の通りです

フロッピー	六五%
オンライン	三〇%
書類	五%

オンラインといえますのは、主として大メーカーと、特許庁を通信回線で結び出願されるものです。特許出願料はあらかじめ預金して

ある口座から、自動的に引き落
れることになります。現在米国特
許庁では、特許出願の電子化を鼓
進中で、今ではこの助言者として
特許庁審査官が、ワシントンに半
年間出張し、アドバイスしてお
ます。日本が世界の最先端の電
化に取り組んだ背景には、特許
査請求から登録に要する期間が、
米国の平均十八ヶ月に対し、日
本は平均三十ヶ月かかるという
間隔がありました。これは日米構
造造差となり、日本平
議の大きなテーマとなり、日本
府は一九九十年六月に「五年以
内に平均特許審査期間を二十四
ヶ月」とす。最終報告を提出し
ます。そのため電子化・審査官
の定員は増・企業による出願の敬選・審

制度の変革を実行した次第で、現在日本では特許出願のあったのは特許公報と公開するだけ審査はしません。審査するのは願されてから七年以内のもので審査請求のあったものだけです。所謂「許可をとる」という特許の設定登録は、審査の結果独創のあるものに限られています。この特許権の存続期間も、公日から十五年、または出願日から二十年の短い方となります。しかもこの権利を維持するためには毎年特許料所謂「年金」を支払必要があり、一請求項当たり初年目約一万円、十年目十万円、二十年目七万円になります。現状は十年間「年金」を払い続ける

許は約半分です。ということは、益を生む特許は少ない事を意味します。

特許庁は約二千五百人の定員としております。さらに外数として私共のような六十歳から七五のシルバー層を多数雇用しておます。その業務内容は翻訳・抄写作成・特許等出願の分類・意匠類等であります。

最近、日本の発展も限界にきという記事がよく目につきますしかし首相官邸を下に見下ろす特許庁十四階の私の勤務場所かみて、次々と絶え間なく特許出がが続く限り、日本の将来は安泰と感ずる次第であります。

32周年総会・懇親会

念の給会及び懇親会を左記の
。また懇親会は恒例により現
す。

年2月17日(土) 十一時半より
一 一三〇～一二〇〇
一 二〇〇～一四〇〇
テル東京
三五〇一四四一
港区新橋一二一六
新橋駅日比谷口徒歩二分)
〇円(会場でいただきます)

成 7 年 懇 親 会 風 景 (H 7 . 3 . 2 1)



平成7年懇親会風景 (H7.3.21)

防衛力整備に決して間隙があつてはならないとの認識のもと二十一世紀初頭における新たな防衛体制にふさわしい通信電子事業を着実に推進したいと通信電子課一同、努力しているところであります。

信友会の皆様には、一層のご健をいただき、ともに新時代を作て参りたいと考えております。

信友会の益々のご発展と信友員の皆様の末永いご健勝をお祈り申し上げます。

私の終戦

鎌倉市 伊藤正康

五十年前の思い出は尽きないが、あえてここでは割愛させていただきます。朝鮮戦争が勃発し、警察予備隊が創設された頃、私はまだ比島に戦犯抑留中であり、私にとっての戦争は終わっていません。

報復とは思えない戦争裁判もすでに前年春には終わっており、後は刑の執行だけが残っていた。一方では対日講和近しい噂が流れる中で昭和二十五年は静かに暮らしていた。

新しい年が希望の年となることを祈っていたが、その夢も一月早々に突如一瞬にして破られてしまった。一夜の中に十四名の同胞を刑場に送らなければならなかったからである。

二年もの間、刑の執行を中止していた比島当局が何故この時機に大量の処刑にふみ切ったのか。その理由は公表されていないが、私は、後に米國務長官となるダレスが、この時対日講和条約草案(無賠償)を携えてマニラ空港へ降り立った時、「反ダレス」を絶叫するデモに遭合したことと無縁ではなかったと思わずにはいられない。

それからの数か月は戦々兢兢、正に絶望の日々の連続であった。頼りになる人は、昭和二十四年来教師(仏教)として来比されていた加賀尾師(収容所内に起居)のほかは一握りの教会関係者だけだった。

やがて昭和二十六年九月、待望の対日講和条約が締結されたものの、条約文中にわれわれの将来を保証する何物もなく、それを聞かされて只啞然とするばかりであった。

明けて昭和二十七年一月、日本からはじめて賠償交渉使節(津島寿一氏)一行が来比したものの、交渉ははじめから暗礁に乗り上げ

たまま進展しなかった。随行記者団(ホテルに缶詰め)一行が某上院議員の案内で或る日モンテネルバを訪ねてくれた。

さらに巣鴨に収容された後、同年十二月三十日、釈放、ようやく私にとって長い戦争は終わった。それから一年も経たない翌、二十九年十月、私は陸上自衛隊富士学校(特別幹部(一尉)として入隊していた。在校一月の間に、普通科から通信科へ職種を変更され、通信学校を経て、年末第一通信隊へ、今は亡き里見先輩とともに

阪神・淡路大震災後の所感

中方通信会長 八木 剛

今回の阪神・淡路大震災では、五千人以上の死者等大きな被害の中で、中道通信会員の死者はなかったが、副会長の寺尾元一氏の半壊が最もひどく大変であった。その他西宮・伊丹・宝塚から神戸の中心部の間に住む会員は、なんらかの被害を受けたものの軽微と聞いており、不幸中の幸いの感を深くしている。しかし隊友会員で亡くなった方もあり、謹んで哀悼を祈ります。

また、信友会員の平尾治氏、西山和彦氏も被害を受けておられると聞いており、ここにお見舞いを申し上げます。またこの間、全国からの物心両面のお見舞いは有るに心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

そして九月月たった現在もなお被災地では復興に懸命の努力が続けられている。今回はこの間に身近で感じたことを述べたいと思う。この地震の死者の中では、年寄りが一階に寝ていて、最初の衝撃による崩壊で亡くなった方が多かったと聞いています。一般に老人をいたわるため二階に若い人が住み、一階に年寄りや病者が常駐である。一階がつぶれた家が多く、二階を含めた家の重みがかかったものでは、ひとたまりもなかったものと思われる。結果的に老人を

に着隊した。じ来二十五年陸上自衛隊でお世話になったことを忘れてはならない。自分ではどうすることもできない大きな運命にほんろうされながらも、自分なりにそれに堪え、それを乗り越えようと努める道程こそが何物にも代えがたい人生なんだと自身に言い聞かせているこの頃である。

で、結局は九月と云うことになってしまった。子どもたちには誠に可哀想なことであった。仮設住宅ができたのに、遠隔地は通勤に困る、転校はいやだ、更に行きつけの病院が遠くなっては云々という人たちが多かったのである。もちろん避難所にいけば食事はただだし、援助物資も貰えるのである。確かに経済的に打撃を受けた人も多いだろうが、自分だけ受けければというエゴの強い面を見せつけられた感じがする。

ここでライフラインの状況を見てみよう。電気を除いては大変であった。電気は私どものところは当日の夕刻にはつき本当に安心しがれたが、関西電力の処置であり仕方ないことであった。つぎには水道である。当日から二、三日は近くの水道破損で漏れき水の汲み取りでカバリーした。その後は自衛隊の水トレーラーに続いて各自自治体・ボランティア等のタンク車に助けられた。しかしタンク車等の来る場所からの運搬は

次ぎに人間関係である。震災が発生した時は、近所の人々皆が表に出てきて、お互い激励しあっていた。大きな地震だったけど怪我はありませんでしたとか、ガス臭いからお互いに火元に注意しようとか、声を掛けあっていた。また、水の運搬の時に一部持ったお水、このお水も無いがどどこに行ったらあるよとかお互いに助け合っていた。またこの間に身近で感じたことを述べたいと思う。

この地震の死者の中では、年寄りが一階に寝ていて、最初の衝撃による崩壊で亡くなった方が多かったと聞いています。一般に老人をいたわるため二階に若い人が住み、一階に年寄りや病者が常駐である。一階がつぶれた家が多く、二階を含めた家の重みがかかったものでは、ひとたまりもなかったものと思われる。結果的に老人を

近況報告

鹿屋市 田中 稲雄

「信友会」帰郷以来13年、昨年は一度に古稀(家内)、喜寿、金婚式を祝った。何もかも遠い昔になつて行く。然し壮年の活動期を過ぎた信友との交わりは忘れ難く、いまだに信友・四通・通団だけは関係を守りつづけている。今や故郷の一人だろが、大隅の地から折に触れて信友会の活躍に思いを馳せている。

「農業」白雲悠々に去りまた来る西窓一片月夜淡し 浮世をよそなる静けさ住居 出でては日毎細をうち 入っては机に文を綴く昔の国語の本で習った詩だが、今正にこの通りの生活を送っている。三〇〇坪の畑の耕作は、春夏秋冬

こたえた。神戸は坂の町、キャリー等の使用が何とか助けたものの苦労は多かった。しかし水はきてもガスのない状況での風呂は、一週間に一度程度の風呂屋(ボイラー)通いで我慢しなければならなかった。私も水道は二月始めにやっと復旧したのである。

現在、全・半壊の場所は殆ど更地となり、個人の家はばつぱり建築されているが、集合住宅についてはなかなか難しいようである。またビル修理・改築は三宮等では始めているがなかなか進行しないのが実情の様だ。先日長田の辺りに行ったが一面の更地は哀れを感じて見るに耐えられなかった。この様な状況下の神戸で、市民は復旧に懸命の努力を重ねている。

地震その他異常の多い最近の日本列島である。この一文が何らかの参考になれば、誠に有り難いと思う。平成八年が信友会の皆さんにとって良い年でありますよう祈りつづけておく。

追記 自衛隊特に通信部隊の活躍については、通信電子等ですでにご承知のことと思うので省略した。(平成七年十月)

り。それでも何とかそのまゝのスコアを維持し得ている。家から三十分の所に本コースが二つ、ミニコースも二ヶ所ある。家内と共に毎週一回の割りて本コースに出かけつる。朝起きる、天気を見る、ゴルフ行きの決める、準備を整える、午前八時を待ってスタートをとる、そよ風と出発して二人で廻って帰る。東京人から見れば何とも優雅なゴルフと言えそう。

「基」(頭の体操)市の福祉事業にオンブズマンとして二回基会があつて、辨当持参で出掛けている。三十名程の仲間(勿論六五才以上のうち六名と対局する。会費は百円。月末に入賞者を決めて、大小の焼酎を賞品にする。全勝が二回は昇格させる。上達は別として、頭の体操には十分役立っていると思う。

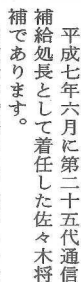
以上、全く退屈することなく三五日を送っていることを、報告して、責を果せて頂く。

三〇〇坪の畑の耕作は、春夏秋冬

をうち 入っては机に文を綴く昔の国語の本で習った詩だが、今正にこの通りの生活を送っている。三〇〇坪の畑の耕作は、春夏秋冬

新兵站支援体制の推進

通信 補給処長 佐々木 勲



平成七年六月に第二十五代通信補給処長として着任した佐々木将補であります。

信友会の皆様には日頃から多大のご支援協力賜っており、紙面を通じて御礼申し上げます。

国内外の情勢は依然として、不透明・不安定であり、防衛費の抑制・防衛力の見直し等、自衛隊を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

このような中で後方分野においても、二十一世紀に向けた新兵站体制の確立のため、施設再配置事業と連動した中央補給処集約・一



元化事業を推進しております。

これは、中央兵站組織の合理化、兵站業務の効率化及び兵站運用の一本化を狙いとし、「将来の陸自の防衛体制」、「兵站環境の変化」及び「新たな役割」に有効に対応できる兵站体制を確立するためであり、平成九年度末に新組織である補給統制本部及び関東補給処を新編することを目標に業務を進めているところであります。

通信補給処の新体制への移転は二段階に区分して実施します。第一段階は、平成八年度前期の大宮駐屯地内における通統統制部門の集約及び一部の霞ヶ浦への移転であります。これは大宮における施設建設の促進を図り、霞ヶ浦に完成する通信補給整備施設の遊休化防止のためです。第二段階は、九年度前期の現業部門の霞ヶ浦への移転と後期の統制部門の十条への移転とです。

陸自通信近代化の推進

通信 団長 重村 勝弘



信友会の皆様には御健勝にて御活躍の事とお慶び申し上げます。また平素から、通信団に対して御指導・御支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、この度平成七年6月30日付をもって通信団長を命ぜられました。

通信科職種最大の部隊として、防衛庁の通信中核を担任する歴史

と伝統に輝く通信団の指揮官として勤務できることは、この上なく名譽なことであり、先輩諸氏の御指導・御支援をいただき、陸上自衛隊の通信電子の発展に努力いたす所存です。

さて、21世紀を目前にして米國を中心として、高度情報化時代に対応すべく、軍事の革命が進行しています。米陸軍では2010年から2020年を対象とした情報を中心とする将来構想「フォース21」を推進しております。

この構想では情報が必要な戦力であり、戦場を支配するものは従来の「航空優勢」から「情報優勢」であると考えています。

このため、第一線の掩体から防衛産業の工場までを基本から見直し、変革しようとしております。

これに従って、教養の発展、部隊の改編、装備の開発、各戦闘機能の再編等陸軍を上げて取り組んでいます。「フォース21」の主要な分野は、C.I.の変革であり、戦場のデジタル化(戦場の映像化)とインターネット型情報通信組織による、リアルタイムでの情報の共有化がその核となっております。

同様に、陸上自衛隊においても大変革期を迎えておりますが、通信電子の分野においてもマルチメディア時代に対応すべく、C.I.の近代化を図らなければならぬと思っております。

近代化に当っては爆発的な進歩をとっている民間の情報通信技術を取り込むことはもちろんのことですが、マルチメディア対応型の通信運用の近代化、インターネット

近況雑感

多賀城市 伊藤 恵基

退官してから勤めた第二の職場も17年間お世話になって平成六年秋退社。全くのフリーになって早や一年になろうとしている。残された人生を無為に過ごすまいと思いついて二つ三つ。体力づくりと健康維持は鍛えようとする。無理をすること云々云々云々の無意味なことをやめて、無難なところで一日一万歩のウォーキングと市民農園で借りた60㎡の畑を育てることにした。ボケ防止の為に生涯学習には通信講座で習字と日本古代史、表装技術の三つを受講して始めた。十月月を過ぎた現在の成果は、一日平均七千歩は歩いてはいるが休耕期を除いて、時期に応じた収穫を得ている。習字は本科を修了して高等科に進んだが技術は遅々として上達せず併せて段級審査があり、漢字と仮名の部門別に認定

りして参加できないものもあるが、それでも相当な数である。先月も宮城県内の海軍の集りがあって参加したが、会の事務局長が病気で会計係が代行しており、その彼から後継者のいない先細りの会を、あと何年維持できるか、何時募集を断るか提案され結論として一九九九年即ち20世紀最後の年まで頑張ろうと言ったことになった。

連綿と繁栄の途をたどる自衛隊関係者である。先月も宮城県内の海軍の集りがあって参加したが、会の事務局長が病気で会計係が代行しており、その彼から後継者のいない先細りの会を、あと何年維持できるか、何時募集を断るか提案され結論として一九九九年即ち20世紀最後の年まで頑張ろうと言ったことになった。

信友会 新人会員名簿

(6. 11. 1 ~ 7. 10. 31)

氏名	〒	現住所(電話)	勤務先(電話)	最終補給等
草階 紀行	334	埼玉県鴻巣市谷口606-2鴻巣谷口ハイパスビル111 (048-284-8672)	明星電気㈱ (03-3814-5115)	通信補給処 (6.10.2)
吉川 紀男	239	神奈川県横浜須賀町馬場1-74-1 (0468-36-1498)	野村ホーム㈱ (045-336-6677)	通信学校 (6.11.2)
徳原 宏幸	238	神奈川県横浜須賀町三春町4-44 (0468-22-7366)	東洋高砂乾電池㈱ (03-3843-2171)	通信学校 (7.1.2)
青木 国広	861-22	熊本県上益城郡益城町木山558-9 (096-286-2807)	西田鉄工㈱ (0964-23-1111)	西通郡 (6.7.14)
鈴木 肇	239	神奈川県横浜須賀町佐原1-20-28 (0468-34-8246)	昭和火災海上保険㈱ (045-474-1321)	通信学校 (7.2.2)
相田 稔	981-31	仙台市泉区松陵3-9-6 (022-375-2440)	東北通信建設㈱ (022-297-5100)	東北地電 (6.10.7)
酒井 雄雄	531	大阪府北区本庄東2-12-4 (06-371-9995)	大和企業㈱ (06-361-0885)	大阪地電 (6.10.2)
水川 彰	736	広島市安芸区矢野東2-24-2-509 (082-888-4488)	広島経済大学 (082-871-1000)	13通大 (6.10.2)
高橋 正明	792	愛媛県新居浜市浜内町6-10-66 (0897-36-3438)	㈱セカイファジ (0898-48-3211)	関西地電 (6.10.2)
横山 博紀	350-11	埼玉県川越市増形189-81 (0492-45-0244)	三菱電機機械システム㈱ (03-3442-2921)	別 (6.12.10)
岩本 正	005	札幌市南区石山3条6-5-1 (011-592-3033)	日本電気システム建設㈱ (011-232-1121)	札幌施設局 (6.11.1)
江 誠郎	816	福岡市博多区東野1-29-27 (092-586-1845)	東京通建設㈱ (03-3473-2101)	福岡 (7.1.1)
斎野 紀浩	813	福岡市東区八丁2丁目10-12 (092-661-0853)	第一薬科大学 (092-541-0161)	九州地電 (6.11.10)
白川 尚弘	270-15	千葉県印旛郡栄町安食台5-24-1 (0476-95-4743)	㈱MHIロジテック (0568-79-0710)	通信補給処 (7.4.10)
栗林 武	331	埼玉県大宮市三橋1-277-3 (048-666-3759)		通信補給処 (7.3.10)
小高 明	981	仙台市青葉区北山1丁目5-1 (022-233-0993)	㈱ホーム建材店 (022-284-7867)	仙台病院 (7.1.1)
松岡 貴	005	札幌市南区川沿3条2丁目2-18 (011-572-9115)		北通群 (6.11.2)
山田 三男	839-12	福岡県浮羽郡田主丸町常盤15-12 (09437-2-1485)	久留米市金丸校区公民館 (0942-33-4535)	4後方支連 (6.12.2)
廣田 次明	771-51	徳島県阿南市加茂町大西11 (0884-35-1062)		関西地電 (7.3.6)
高木 隆弘	664	伊丹市西野6丁目3番地103 (0727-70-3527)	上田短資㈱ (06-202-5551)	伊丹業務隊 (7.3.10)
梅北 兼弘	869-11	熊本県菊池郡菊池町久礼119-9-8 (096-337-3126)	大栄企業㈱ (096-366-6777)	西方面電 (7.3.11)

氏名	〒	現住所(電話)	勤務先(電話)	最終補給等
中澤 沢夫	244	横浜市戸塚区前田町516-1-GC-B101 (045-824-2055)	池上通信機㈱ (03-5762-5151)	通信学校 (7.7.10)
吉岡 誠	279	千葉県浦安市入船6丁目6番402 (0473-52-6437)	富士通特機システム㈱ (03-5479-7737)	通信補給処 (7.6.3)
栗原 廣	239	神奈川県横浜須賀町浦上3-30-2 (0468-42-0564)	松下電器産業㈱ (03-3438-5159)	通信学校 (7.8.1)
瓜山 美智明	239	神奈川県横浜須賀町西浦賀3-15-23 (0468-42-4876)	松下電器産業㈱ (03-3431-6109)	中野通群 (7.10.1)
境 克己	292	千葉県木更津市清西3-11-17 (0438-36-9830)	行政書士境克己事務所 (0438-36-9830)	大津津駐連 (7.2.7)
日 莫昌宏	192	東京都八王子市南大沢4-19-3-203 (0426-76-3851)	日本無線㈱ (03-3584-8800)	通信団 (7.6.3)
後藤 茂	820	福岡県飯塚市大字船山1394-3 (0948-28-5566)	石炭鉱害事業団 (0948-22-8300)	2高特団 (7.4.2)
山本 繁一	061-22	札幌市南区藤野2条6-8-25 (011-591-6122)	北海道電気保安協会 (011-591-0712)	北通群 (7.5.2)
横山 由朗	940-11	永岡市左近町2-55 (0258-36-6587)	第一生命 (0258-36-6587)	新潟地通 (7.5.6)
志井 憲一	239	横浜須賀町長沢580グリーンハイッ12-2-401 (0468-49-2256)	日本火災海上保険㈱ (045-201-6725)	通信学校 (7.10.2)
築森 寛喜	693	鳥根県出雲市武志町630-10 (0853-25-3160)	JAいずも信用部 (0853-21-6029)	中通群 (7.6.17)
野崎 涉	030	青森市大野字片岡64の12 (0177-74-4536)	自営 (0177-77-4660)	9通大 (7.3.5)
岩森 拓雄	158	東京都世田谷区深沢5-7-12 (03-3702-0269)	日本ビュートリパック㈱ (044-812-9726)	陸 (7.6.1)
鷲尾 晃一	066	千歳市舞ヶ丘2丁目14-11 (0123-24-4088)	木の城たいせつ (0127-24-4161)	7通大 (7.1.11)

陸上通信電子

トピックス

陸上通信電子課
総括班

はじめに

平成7年度は、阪神・淡路大震災及び地下鉄サリン事件に代表される一連のオーム真理教事件の連続状況下で始まりました。これらの、わが国の歴史に陰を落とす大災害及び大事件は、このような事案にも対応できるよう訓練された、実力組織としての陸上自衛隊の能力を再認識させる結果となりました。

こうした理解と新たな任務に関する議論の一方で、8年度から始まる次期中期計画の策定を巡り、厳しい取組を迫られています。

2 阪神・淡路大震災

平成7年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災は、死者5500人、損壊家屋約18万戸を数える未曾有の大災害となりました。この日通信としても逸早く衛星可搬局、ヘリ映伝を派遣し、全国からの通信部隊の派遣に着手しました。その後、人命救助から民生支援、災害復旧にいたる通信を、基地、野外及び民間の通信手段を組み合わせて構成し、100日に及ぶ任務を完了しました。

この間、郵政省からの周波数の確保、インマルサットの国内使用等平常事態ではできなかった数々の試みを具体化し、全国各地からの部隊の派遣、現地に連携した密接な後方支援及び臨時の予算配分等できる限りの態勢をとったわけでありました。

現地では、被害を被られた企業もあり、状況把握も困難な状態でしたが、補給物品の継続的取得、整備態勢の維持等信友会の皆様の

御支援に深く感謝申し上げます。

3 国際貢献活動

オランダ高原の恒久的な平和のための戦力引き離しの監視に関連し、2月からUNDOFへの部隊派遣が行われることとなりました。4度目のPKOではありましたが、他国軍派遣部隊の中での活動はこれまで経験もなく、カナダ派遣部隊との連携、派遣部隊が本来のUNDOFの二重構造に起因する問題等懸念事項も多々あります。

要員の制限から派遣部隊の通信担当は決して十分とは言えない状況の中、現地のカナダ派遣部隊との通信及び派遣部隊内の通信、国際通信並びに国内の留守業務の通信といった各種の通信を長期的に支援・運営することとなります。

4 新規事業

阪神・淡路大震災の教訓から、地震災害復旧の決定に資する映像情報の取得のため、平成7年度補正予算で全方面隊に新たにヘリコプター映像伝送装置の査定を受けました。これは、機上撮影装置または地上撮影装置からの映像をヘリコプター中継し、地上受信装置または移動受信装置に受信し、さらに衛星固定局または衛星可搬局から増設の映像を受信局に映像を伝送するシステムであります。

5 おわりに

今年度は、災害派遣をはじめ歴史に残る事案の中で、通信科としてもしっかりと細心に通信支援を実施し、一定の評価が得られるものと考えています。このようないわば実戦を体験し、これから処置すべき事項も明らかにし、必要な事項は今後の事業等で進歩・改善して行きたいと思っております。信友会諸先輩には、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



インマルサット国内運用
(阪神・淡路大震災)

在日米陸軍

ベッカー氏の送別会

在日米陸軍司令部情報管理部計画課長 ボウルWベッカー氏の送別会が平成七年十一月二十五日、グラントビル市谷で盛大に実施されました。

同氏は昭和十七年ハーバード大学を卒業の後、米軍に勤務し極東米軍の一員として昭和二十三年に来日され、戦後五十年の節目の今日まで対自衛隊通信関係渉外担当として日米親善に多大の功績を残されました。氏の功績を称えるため、現職は通信電子課長林一佐と、OBは大河原三平氏が發起人となり、共催により送別会が企画され、同氏所縁の約六十名の現職・OBが参加しました。

氏から、日米親善の重要性とベッカー氏の永年に亘る陸上自衛隊通信への功績に対する謝辞があった後、通信学校長から現職通信を代表して感謝状が贈呈されました。また、有志一同による記念品が贈呈されました。

在日米軍司令部情報管理部部長モーン大佐のユーモア溢れる紹介の後、75才とは思えない元気なベッカー氏の挨拶がありました。日米の友好親善の一層の発展を願う誠実で誠意溢れる内容でした。短い別れの歓談の後、信友会会長牛山氏の心温まる送る言葉を、月野木氏が当意即妙に通訳し、華やかな意に一抹の寂しさを漂う会を閉会しました。

訃報

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

氏名	御逝去年月日	〒	現住所(電話)
川崎 等	6.10.21	195	東京都町田市鶴川4-8-8 (0427-35-0181)
佐藤 孝司	6.11.16	245	横浜市区白百合2-15-17 (045-811-4401)
柳下 哲男	6.	238-03	神奈川県横浜須賀大和田1-24-15 (0468-56-2795)
秋元 哲雄	7.2.1	173	東京都板橋区仲町16-2 (03-3367-4236)
坂本文一	6.6.	243-04	神奈川県海老名市杉久保1722-13 (0462-38-2409)
田村 正男	6.7.25	339	埼玉県岩槻市府内1-3-34 (048-798-8803)
里見 俊一	7.3.22	272	千葉県市川市市国府台5-11-10 (0473-71-6363)
中原 正行	7.1.26	181	東京都三鷹市井口2-10-25 (0422-31-5270)
米岡 毅良	6.8.20	237	神奈川県横浜須賀小原台2-13-5 (0468-43-6997)
伊藤 和男	6.12.	279-42	広島県双三郡吉舎町海田原223-2 (0824-43-2978)
野田 光明	7.8.14	849	佐賀市高木瀬東4-3-7 (0952-30-9213)
佐々木新五	7.	157	東京都世田谷区成城8-22-1 サクラピア成城303 (03-3789-0721)
依田 尊之	7.2.2	178	東京都練馬区大泉町2-54-30 (03-3822-1957)
鬼木 郷	7.2.19	814-01	福岡市城南区田島2-12-28 (092-821-2552)
磯邊 義孝	7.3.3	177	東京都練馬区谷原6-13-3 (03-3997-6050)
若松 一馬		351	埼玉県朝霞市泉水2-6-28 (0484-63-1662)
長崎 正人	7.3.9	356	埼玉県上福岡市元福岡3-12-10 (0492-63-0627)
関田 松三	7.9.16	245	横浜市区白百合3-26-5 (045-811-4911)

事務局だより

信友会「総会・懇親会」

信友会々員の皆様の御協力と御支援により、第一面御案内のとおり信友会三十二年「総会・懇親会」を平成八年二月十七日(土)に「第一ホテル東京(新橋)」において開催できる運びになりました。今回は昨年と同程度の規模で実施するよう計画しています。

● 阪神大震災の見舞状況等

平成七年一月の阪神大震災の大災害に遭われた関西地区の二十八名の信友会々員の方々に牛山会長からの見舞状を差し出すとともに、家屋半壊以上の二名の方に見舞金を早速お届けしました。

また大震災の災害派遣で大活躍された中の方通信班はじめ派遣通信部隊に対し、感謝と激励の趣旨を添えて陸上通信電子課長を通じて励みをお渡し致しました。

● 地方懇親会盛況に終了

信友会地方会員の皆様方との親睦を目的とした地方懇親会を平成

平成7年度信友会会計報告

(H7.1.1~H7.12.31)

(単位:円)

収 入	支 出
前年繰越 4,816,503.-	慶弔費 210,050.-
終身会費 350,000.-	通信事務費 238,865.-
名簿代 23,000.-	印刷費 262,135.-
通信事務費 62,000.-	謝礼 34,000.-
利子 49,064.-	地方交付 100,000.-
寄付等 31,132.-	次年度繰越 4,486,649.-
計 5,331,699.-	計 5,331,699.-

以上のとおり報告します。

平成7年12月31日

会計幹事 紫山 進◎

監査の結果相違ありません。

平成7年12月31日

監事 切刀 忠男◎

川本 克治◎

編集後記

戦後五十年の節目の年たる平成七年も、年明け早々の阪神・淡路大震災をはじめとして、多事多難な年でした。しかし、大局的には、平和な一年でもありました。全国各地の会員の皆様から御多忙中にもかかわらず玉稿を御寄稿頂き、お陰様で、無事編集を終えることができました。市ヶ谷台の上の本館も、もう殆ど姿を消しました。その傍で、機関紙担当一同ひとまずホッとしているところです。

信友会々員の皆様には会育成のため常日頃御高配を賜り誠に有難く感謝申し上げます。お陰様にて信友会諸行事も順調に進捗しております。平成四年から会運営のため、皆様に「通信等事務費」の御負担をお願いしておりますが平成八年はその維持運営のため皆様の御協力をお願い申し上げます。信友会の発展、維持運営のため皆様の御協力をお願い申し上げます。

「通信等事務費」の納入は同封の郵便振替用紙を使用をお願い致します。

● 信友会役員の紹介
第三十一回総会で牛山会長以下全役員が引き続き平成八年も会の運営に当たることになりましたので、よろしく御協力御支援のほどをお願い申し上げます。現在信友会のため活躍されている役員は次のとおりです。

○会長 牛山正吾◎副会長 高橋清◎事務局局長 矢口弘手◎総務 三石勉◎熊谷猛◎弘中一壽◎植村明短◎山田修◎名簿 水井繁◎庄司裕藏◎河内正臣◎堀内迪男◎機関紙 水部英人◎岸野宏四郎◎中山法也◎田中常光◎会計 水口二平◎柴山進◎監事 水切刀忠男◎川本克治◎相談役 井上秀夫◎中本吉昭◎(メグループ長)